

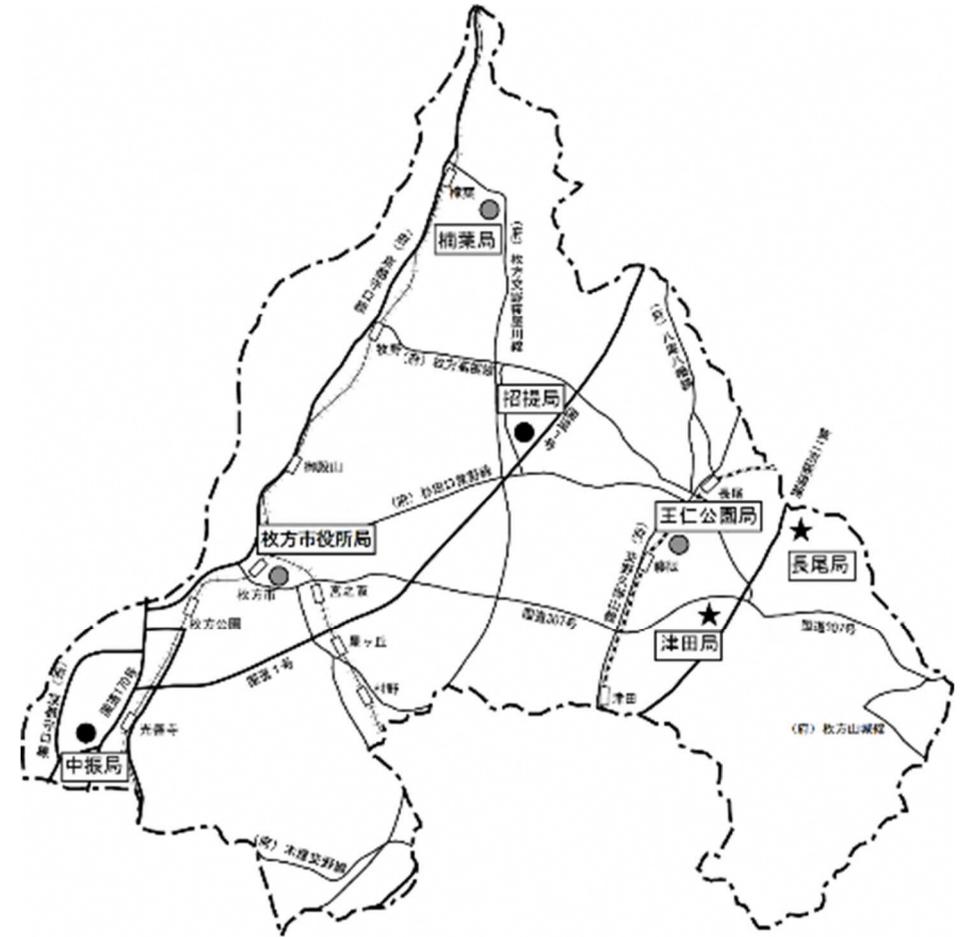
令和3年度の環境の状況について

I 大気環境の状況

大気汚染測定局の状況 【参照：環境データ集 P1】

大気環境の状況を把握するため、一般環境大気測定局3局、自動車排出ガス測定局2局及び第二京阪道路環境監視局1局（長尾局は令和3年4月から休止）で、二酸化窒素等の大気汚染物質の常時監視を行っています。

測定局名		測定項目								
		二酸化窒素	一酸化窒素	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	光化学オキシダント	二酸化硫黄	一酸化炭素	風向・風速	非メタン炭化水素
一般局	枚方市役所	○	○	○	—	○	○	—	○	○
	王仁公園	○	○	○	○	○	—	—	○	—
	楠葉	○	○	○	—	○	—	—	○	—
自排局	招提	○	○	○	—	—	—	—	○	—
	中振	○	○	○	○	—	○	○	○	—
第二京阪局	長尾 (休止中)	○	○	○	—	—	—	—	○	—
	津田	○	○	○	—	—	—	—	○	—



- 一般環境大気測定局（一般局）
- 大気環境の状況を把握するため住宅地域などに設置
- 自動車排出ガス測定局（自排局）
- 自動車排出ガスの影響を把握するため道路周辺に設置
- ★ 第二京阪道路環境監視局（第二京阪局）
- ★ 第二京阪道路による大気環境等への影響を把握するため設置

大気汚染物質の環境基準達成状況 【参照：環境データ集 P4】

(1) 一般環境大気測定局及び自動車排出ガス測定局における環境基準達成状況

常時監視を行っている項目のうち、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質、二酸化硫黄及び一酸化炭素については、すべての測定局で環境基準を達成しました。光化学オキシダントについては、すべての測定局で環境基準を達成できませんでした。

<令和3年度大気汚染環境基準達成状況>

測定項目 環境基準値		二酸化窒素 (ppm)	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	微小粒子状物質 (μg/m ³)		光化学オキシダント (ppm)	二酸化硫黄 (ppm)	一酸化炭素 (ppm)
		0.04~0.06 以下 (日平均値)*	0.10 以下 (日平均値)**	15 以下 (年平均値)	35 以下 (日平均値) *	0.06 以下 (最高1時間値)	0.04 以下 (日平均値)**	10 以下 (日平均値)**
測定局								
一般局	楠葉	○ (0.024)	○ (0.024)	—	—	× (0.101)	—	—
	枚方市役所	○ (0.026)	○ (0.027)	—	—	× (0.107)	○ (0.001)	—
	王仁公園	○ (0.021)	○ (0.025)	(8.2)	○ (18.3)	× (0.098)	—	—
自排局	招提	○ (0.033)	○ (0.026)	—	—	—	—	—
	中振	○ (0.031)	○ (0.028)	(9.0)	○ (20.0)	—	○ (0.002)	○ (0.5)

(2) 第二京阪道路環境監視局における環境基準値との比較

二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については、環境基準値を下回る結果が得られました。

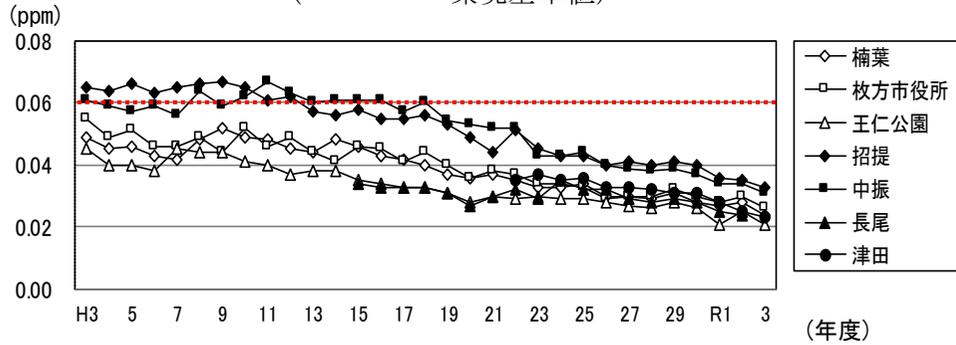
<令和3年度の第二京阪局における大気環境基準値との比較>

測定項目 環境基準値		二酸化窒素 (ppm)	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)
測定局		0.04~0.06 以下 (日平均値)*	0.10 以下 (日平均値)**
第二京阪局	長尾(休止中)	—	—
	津田	○ (0.023)	○ (0.027)

* 1日平均値の年間98%値。
** 1日平均値の年間2%除外値。

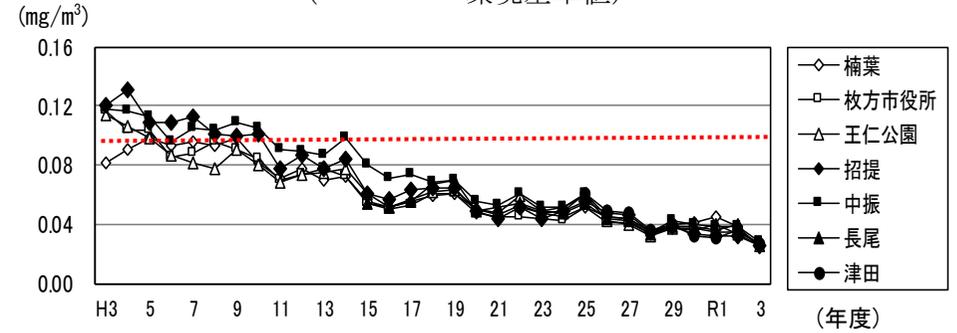
測定項目ごとの各測定局における経年推移 【参照：環境データ集 P5】

二酸化窒素の年間98%値の推移と環境基準値との比較
 (..... 環境基準値)



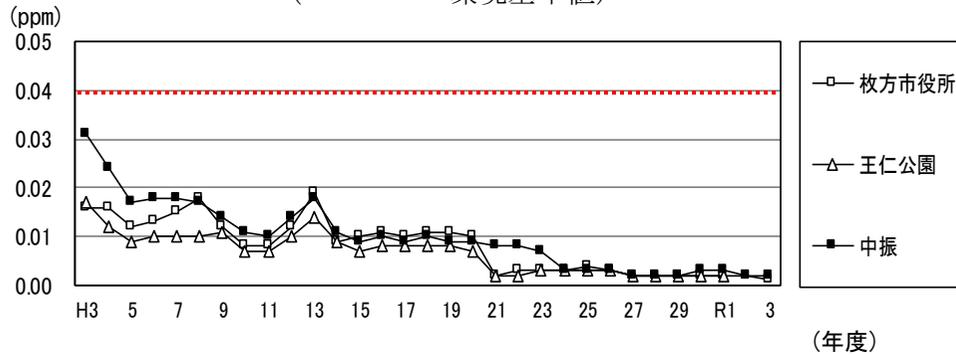
※長尾局については、令和3年度より測定休止

浮遊粒子状物質の年間2%除外値の推移と環境基準値との比較
 (..... 環境基準値)

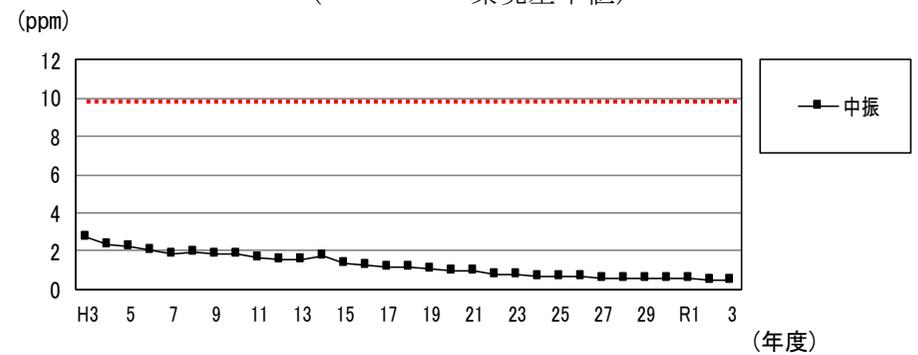


※長尾局については、令和3年度より測定休止

二酸化硫黄の年間2%除外値の推移と環境基準値との比較
 (..... 環境基準値)



一酸化炭素の年間2%除外値の推移と環境基準値との比較
 (..... 環境基準値)



有害大気汚染物質調査結果 【参照：環境データ集 P14～15】

大気中の濃度が低濃度であっても人が長期的に暴露された場合には人の健康を損なうおそれのある有害大気汚染物質について、枚方市役所局（一般局）で21物質、招提局（自排局）で7物質について調査を行いました。

令和3年度の調査の結果、環境基準値が設定されている4物質について、すべて環境基準を達成しました。また、環境基準が設定されていない物質のうち、指針値が設定されている11物質についても、すべて指針値を下回っていました。

<環境基準が設定されている物質の令和3年度の測定結果（年平均値）と環境基準の達成状況>

項目 (単位)	ベンゼン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	トリクロロエチレン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	テトラクロロエチレン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	ジクロロメタン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
環境基準値	3以下	130以下	200以下	150以下
枚方市役所局	1.4	0.34	0.15	2.7
招提局	1.5	—	—	—

<指針値が設定されている物質の令和3年度の測定結果（年平均値）と指針値との比較>

項目 (単位)	アクリロ ニトリル ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	塩化ビニル モノマー ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	水銀及び その化合物 (ngHg/m^3)	ニッケル 化合物 (ngNi/m^3)	クロロ ホルム ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1, 2- ジクロロエタン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1, 3- ブタジエン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	ヒ素及び その化合物 (ngAs/m^3)	マンガン 及び その化合物 (ngMn/m^3)	アセト アルデヒド ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	塩化メチル ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
指針値	2以下	10以下	40以下	25以下	18以下	1.6以下	2.5以下	6以下	140以下	120以下	94以下
枚方市役所局	0.073	0.014	1.6	2.6	0.27	0.15	0.077	0.99	30	2.7	1.3
招提局	—	—	—	—	—	—	0.098	—	—	2.4	—

大気中のアスベスト濃度調査結果 【参照：環境データ集 P16】

令和3年11月9日から11日までの3日間に、枚方市役所局で、大気中のアスベスト濃度調査を実施しました。その結果、調査地点における3日間の幾何平均値は、0.056本/Lでした。なお、この値は、世界保健機関（WHO）の環境保健クライテリアと比べて低い濃度でした。

<令和3年度の測定結果>

調査地点	試料採取日	アスベスト濃度	(本/L)
			平均値※
枚方市役所局	R3.11.9	0.056	0.056
	R3.11.10	0.056	
	R3.11.11	0.056	

参考：世界保健機関（WHO）の環境保健クライテリア

世界の都市部の一般環境中の石綿濃度は、1～10本/L程度であり、この程度であれば、健康リスクは検出できないほど低い。

※アスベストの環境濃度は、測定値を幾何平均で算出。（アスベストモニタリングマニュアルより）

ダイオキシン類環境調査結果 【参照：環境データ集 P16～17】

ダイオキシン類対策特別措置法に基づく常時監視として、大気1地点、河川水質3地点及び河川底質3地点、地下水質1地点、土壌1地点について、ダイオキシン類環境調査を実施しました。

令和3年度の調査の結果、大気、河川水質及び河川底質、地下水質、土壌のダイオキシン類濃度は、すべて環境基準値を下回っていました。

（1）大気中のダイオキシン類

(pg-TEQ/m³)

調査地点	測定値					環境基準値
	春季	夏季	秋季	冬季	年平均値	
枚方市役所局	0.025	0.019	0.0086	0.013	0.016	0.6

（2）河川水質中及び河川底質中のダイオキシン類

(水質は pg-TEQ/L、底質は pg-TEQ/g)

調査地点	河川水質				河川底質	
	春季	秋季	年平均値	環境基準値	測定値	環境基準値
船橋川（新登橋上流）	0.24	0.24	0.24	1	0.86	150
穂谷川（淀川合流直前）	0.23	0.14	0.19		0.36	
天野川（淀川合流直前）	0.37	0.13	0.25		0.28	

（3）地下水質中のダイオキシン類

(pg-TEQ/L)

調査地点	試料採取日	測定値	環境基準値
楠葉丘2丁目	R3.11.26	0.063	1

（4）土壌中のダイオキシン類

(pg-TEQ/g)

調査地点	試料採取日	測定値	環境基準値
平野小学校	R3.11.26	0.022	1000

II 水環境の状況

公共用水域の水質調査結果 【参照：環境データ集 P18～21】

(1) 健康項目

全ての地点で環境基準を達成しました。

(2) 生活環境項目

①生物化学的酸素要求量（BOD）

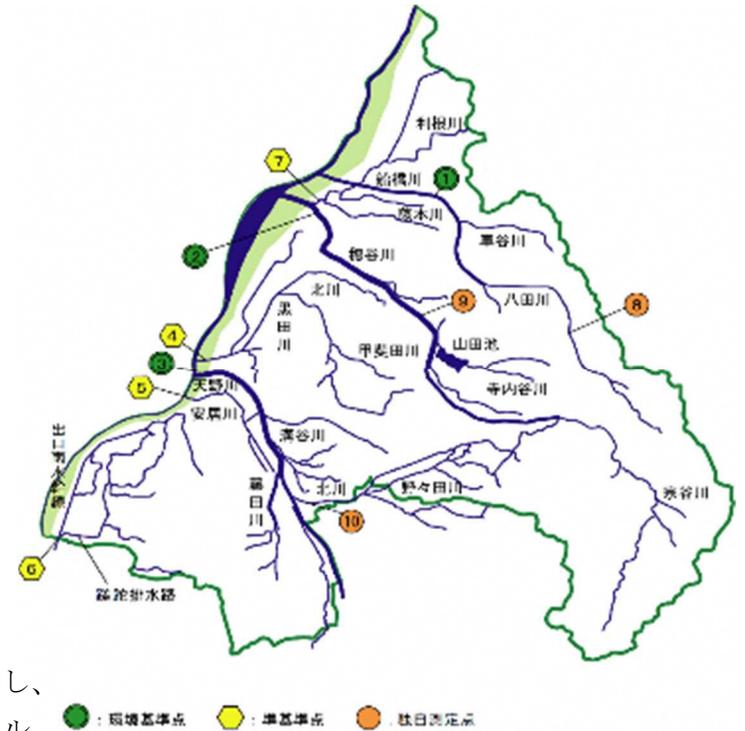
環境基準点3地点（船橋川、穂谷川、天野川）の全ての地点で環境基準を達成しました。

河川名	地点名	環境基準値	BOD75%値 (mg/L)	環境基準の評価 達成○ 未達成×
船橋川	新登橋上流	3mg/L 以下	2.1	○
穂谷川	淀川合流直前		2.0	○
天野川	淀川合流直前		1.5	○

②その他の項目

水生生物の生息状況の適応性の指標である全亜鉛は穂谷川及び天野川では環境基準を達成し、船橋川では環境基準を達成できませんでした。ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)については、全ての地点で環境基準を達成しました。

項目 河川名	環境基準達成状況 達成○ 未達成×					
	全亜鉛		ノニルフェノール		LAS	
	年平均値 (mg/L)		年平均値 (mg/L)		年平均値 (mg/L)	
船橋川	0.033	×	<0.00006	○	0.0031	○
穂谷川	0.024	○	<0.00006	○	0.0009	○
天野川	0.011	○	<0.00006	○	0.0018	○



番号	河川等名	地点名
1	船橋川	新登橋上流
2	穂谷川	淀川合流直前
3	天野川	淀川合流直前
4	黒田川	西ノ口樋門
5	安居川	淀川合流直前
6	出口雨水幹線	枚方寝屋川市境
7	藤本川	淀川合流直前
8	船橋川	新宇治橋
9	穂谷川	穂谷川新橋
10	北川	北川流末

地下水質調査結果 【参照：環境データ集 P24～25】

市域における地下水質の概況を把握するための「概況調査」、発見された汚染について汚染範囲の確認等を行うための「汚染井戸周辺地区調査」及び地下水汚染の継続的な監視を行うための「継続監視調査」を実施しています。これらの地下水の汚濁状況の調査は、水質汚濁防止法の規定により大阪府が策定した地下水水質測定計画に基づくものです。

（1）概況調査

令和3年度は、楠葉丘地区、津田駅前地区及び牧野阪地区の合計3地点について調査を実施しました。

3地点のすべての項目で環境基準値を下回っていました。

（2）汚染井戸周辺地区調査

汚染井戸周辺地区調査は、概況調査等により新たに汚染や汚染の恐れが発見された場合、その広がりや原因を調べる調査です。

令和3年度は、汚染井戸周辺地区調査は実施していません。

（3）継続監視調査

汚染の継続的な監視が必要とされた12地区のうち、令和3年度は合計9地区で調査を行いました。また、天然に存在する物質や肥料由来と思われる物質が原因と考えられる4地区については、平成25年度より4年に一度の頻度で調査を行っています。

その結果、中宮山戸町地区でテトラクロロエチレンが、尊延寺馬廻地区で鉛及び砒素が、それぞれ環境基準値を超過して検出されました。

Ⅲ 騒音の状況

騒音調査結果 【参照：環境データ集 P26～27】

道路に面する地域 29 地点及びそれ以外の地域（以下「一般地域」） 24 地点のうち、令和 3 年度は道路に面する地域 7 地点、一般地域 8 地点で環境騒音モニタリング調査を実施しました。

なお、過去の騒音測定結果を精査し、測定地点の状況に変化が無いことを確認したうえで「騒音規制法第 18 条の規定に基づく自動車騒音の状況の常時監視に係る事務の処理基準について」（環境省）に従い、5 年以内に 1 回のローリング方式で調査を行っています。

（1）道路に面する地域の環境基準達成状況

道路の種類別	評価区間延長 (km)	評価区間	評価対象住居等戸数	昼夜とも基準値満足	昼間のみ基準値満足	夜間のみ基準値満足	昼夜とも基準値超過
一般国道	26.5	37	5,277戸	4,657戸 (88.3%)	267戸 (5.1%)	0戸 (0.0%)	353戸 (6.7%)
府道	52.5	44	19,165戸	18,708戸 (97.6%)	230戸 (1.2%)	40戸 (0.2%)	187戸 (1.0%)
全体	79.0	81	24,442戸	23,365戸 (95.6%)	497戸 (2.0%)	40戸 (0.2%)	540戸 (2.2%)

（2）一般地域の環境基準達成状況

地域の区分	地点数	昼間			夜間		
		環境基準値	測定値 (Leq)	適合地点数 (適合率%)	環境基準値	測定値 (Leq)	適合地点数 (適合率%)
A地域 専ら住居の用に供される地域	12	55dB 以下	37～47dB	12 (100%)	45dB 以下	35～39dB	12 (100%)
B地域 主として住居の用に供される地域	6	55dB 以下	43～51dB	6 (100%)	45dB 以下	33～44dB	6 (100%)
C地域 相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域	6	60dB 以下	42～48dB	6 (100%)	50dB 以下	37～42dB	6 (100%)
全地域	24	—	37～51dB	24 (100%)	—	30～44dB	24 (100%)

IV 地盤環境の状況

地盤沈下水準測量結果 【参照：環境データ集 P28】

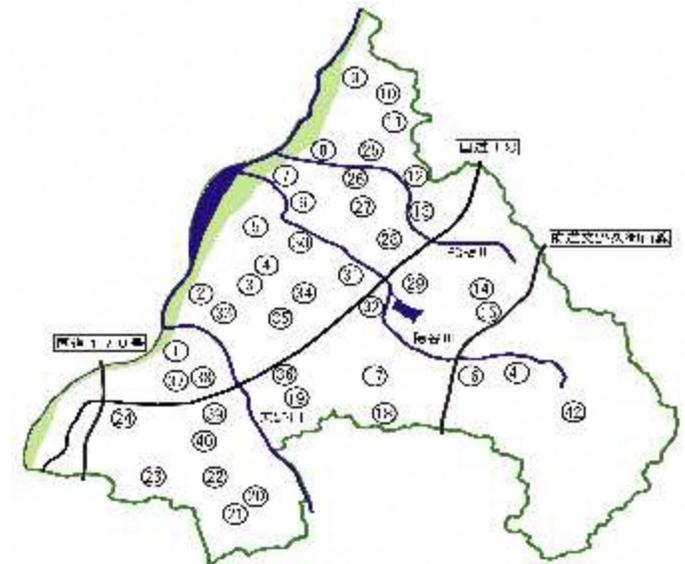
市域の地盤沈下状況を把握するため、市内42地点に一級水準点を設置して、昭和47年度から水準測量を実施しています。地盤沈下については沈静化してきているため、平成元年度以降は隔年で水準測量を行っていましたが、さらに、平成21年度以降は、大阪府に合わせて3年に1回、水準測量を実施することとしました。

令和3年度に市内42地点で調査を行った結果は、前回（平成30年度）の測定値と比べて、すべての水準点で大きな変動はありませんでした。

枚方市内地盤沈下変動量（令和3年度）

（単位：cm）

番号	地 点	平成30年度比	番号	地 点	平成30年度比	番号	地 点	平成30年度比
1	三矢公園	-0.55	15	菅原小学校	-0.32	29	田口山配水場	-0.48
2	八幡神社	-0.67	16	津田支所	-0.37	30	牧野車塚公園	-0.49
3	高陵小学校	-0.56	17	水道局春日事務所	-0.35	31	山田神社	-0.27
4	殿山第一小学校	-0.45	18	春日公会堂	-0.24	32	円通寺	-0.35
5	清伝寺	-0.86	19	桜丘小学校	-0.23	33	市道枚方牧野線	-0.85
6	牧野公園	-0.45	20	春日神社	-0.43	34	山田小学校	-0.39
7	藤本川ポンプ場	-0.56	21	春日小学校	-0.40	35	中宮公園	-0.48
8	上下水道部北部別館	-0.56	22	香陽小学校	-0.33	36	星丘中央線	-0.24
9	町楠葉会館	-0.70	23	第二中学校	-0.36	37	鷹塚山配水池	-0.32
10	樟葉小学校	-0.43	24	蹉跎小学校	-0.26	38	枚方第二小学校	-0.29
11	七ツ松公園	-0.40	25	二宮公園	-0.34	39	山之上小学校	-0.40
12	中の池公園	-0.74	26	牧野小学校	-0.56	40	第四中学校	-0.68
13	北部区画第2号線	-0.33	27	殿山第二小学校	-0.32	41	総合福祉センター	-0.18
14	菅原保育所跡地	-0.38	28	招提小学校	-0.20	42	氷室小学校	-0.58

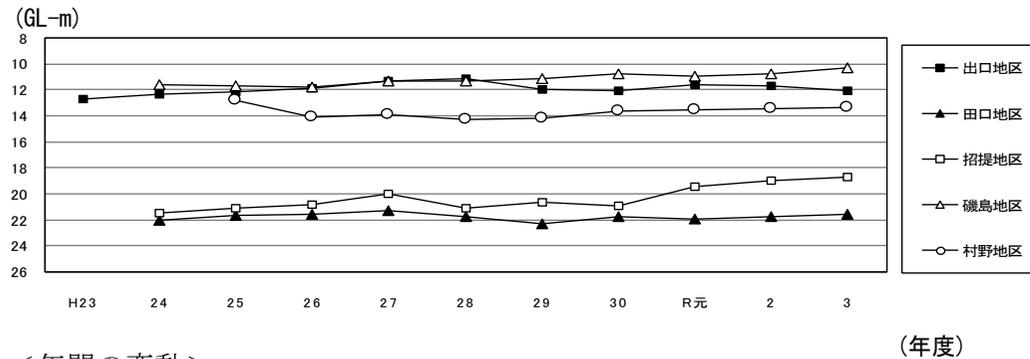


地盤沈下の兆候を把握するため、市内5地区で地下水位状況を監視しています。

地下水位（静水位）の年平均値の経年変化は、全ての地区で大きな変化はみられませんでした。

月平均値の変化については、田口地区、村野地区、磯島地区の3地区では夏季に地下水位が低下していますが、その後、おおむね元の水位まで回復しています。出口地区については、地下水位に若干の変動が見られますが、年間を通じての大幅な地下水位の低下はありませんでした。招提地区では、特に変化は見られませんでした。

<経年変化>



<年間の変動>

